

大雨おどろかす 雷鳴怖ろしい

住民が衣類を選び出すなど生活再建への努力が始まっている。しかし、連日、季節外れの大雨に見舞われ、25日朝から再び雨脚が強まり、地震で陥没した道路がアール状になっている。同日未明には雷も発生、住民は雷鳴で地震の恐怖を思い出し、眠れぬ夜を過ごした。衛生状態の悪化も懸念され、復旧をさらに手聞取らせている。

衛生状態の悪化も懸念

「これからどうしたらいいの」。イズミト郊外にあるテント村。強い雨が打ちつけるテントの中で、主婦カドリエナツコチユさん(35)がつぶやいた。ここではトルコ政府が約600のテントを張り、被災者約2000人が暮らしている。降り続く雨で道路には水たまりができ、救援のトラックが泥水をほね上げて走る。

アッコチユさんの住んでいたアパートは全壊。家族6人は無事だったが、狭いテント生活が続いている。夫はパン職人。だがイズミトのパン工場は被災で操業停止のまま。アッコチユさんは工場さえ動けばみんなパンを焼いて配れるのにな」と天粒の涙をこぼした。

イズミト郊外の刑務所職員ルスマン・ウルデンさん34は25日朝、1年間の長期休暇を申請するため職場に行き、帰りに雨に降られずぶぬれ。自宅近くの高校の校庭に簡易テントを張り、親せき約30人が身を寄せている。

イズミトの西約20キロの

町、キヨルフエフに住むビニールで屋根を作ったところの家は全壊。8人家族のうち5人が死亡した。ウルデンさんは「私の家も全部壊した。今住むテントも、ビニールで屋根を作ったものの粗末なもので、雨漏りがひどい」とため息をついた。

午後8時ごろから深夜まで続いた。24日も深夜から25日未明まで強い雨が降り、25日午前7時ごろには雷鳴が響いた。トルコの夏は比較的雨が少ないが、25日午前10時ごろから再び強く降り、首都アンカラとイズスタンブルをつなぐ高速道路ではスリップによるとみられる交通事故が発生。道路は渋滞し、被災地に向かうトラックなどの長い列ができた。

トルコ大地震ルポ

テント村の食料配給所では、被災者がずぶぬれになりながら鍋を手に豆料理の昼食を受け取るため並んでいた。社員のルマル・クルチユさん(51)は「夜は寒く、毛布にくるまって寝ている」と被れた表情。横にいたトルコ軍の若い兵士は「雨の中で並ぶ人たちがかわいそう。早くやんをほしい」と天を仰いだ。

精神疾患も増加の兆し

町広場に寝泊まりしている。各国から救援物資が集まってきており、ギョルジュクの病院にも多数の薬品が運びこまれていた。NGO(非政府組織)が薬品を管理しているが、整理が間に合わず、必要なものがすぐに出てくるまでには至っていない。

22、23日に診察した人の内訳＝感冒25、気管支炎2、肺炎1、気管支ぜんそく2、へんとう腺炎2、副鼻腔炎2、リンパ節炎1、頭痛2、外耳炎2、中耳炎4、口唇ヘルペス1、腹痛3、急性腸炎6、乳児下痢症5、胃炎6、便秘症1、外傷11、四肢痛(外傷なし)2、熱傷1、関節リウマチ2、湿疹皮膚炎症候群・虫刺症6、化膿性皮膚疾患7、高血圧症5、不安神経症9、過換気症候群1、ひきつけ1、むし菌1、妊娠の疑い3。

呼吸器感染症と消化器疾患が多いが、処置後の外傷のガーゼ交換も少なくない。不安神経症などの精神疾患も増加の兆しがある。PTSD(心的外傷後ストレス障害)と呼べるような重症の患者も1人診察した。

【8月24日】ヌシェティエ村(震源地イズミトの南西十数キロ)やその周囲の村には昨日電気が復旧した。昨日から雨が降り始め、気温が低下。やや肌寒く、長袖を着ている人が多い。

スタッフの増員に伴い、活動場所を増やさなければならぬが、ギョルジュク(イズミトの西10キロ)は建物の破壊がひどく、残っている住民は少ない。外傷などでの重症者は既にイスタンブールなどの(救急車で1～2時間で行ける)都市に搬送され、自力で移動できる住民は親せきのいる村や、イスタンブールなどに避難している。ヌシェティエ村の住民はこれまで屋外のテントで寝泊まりしていたが、昨日からの雨で、家に入らざるを得なくなった。ギョルジュクに残っている住民は、主に赤新月(赤十字に相当)の設置したテントキャンプに入るか、

トルコで AMDA 救援報告

町広場に寝泊まりしている。各国から救援物資が集まってきており、ギョルジュクの病院にも多数の薬品が運びこまれていた。NGO(非政府組織)が薬品を管理しているが、整理が間に合わず、必要なものがすぐに出てくるまでには至っていない。

22、23日に診察した人の内訳＝感冒25、気管支炎2、肺炎1、気管支ぜんそく2、へんとう腺炎2、副鼻腔炎2、リンパ節炎1、頭痛2、外耳炎2、中耳炎4、口唇ヘルペス1、腹痛3、急性腸炎6、乳児下痢症5、胃炎6、便秘症1、外傷11、四肢痛(外傷なし)2、熱傷1、関節リウマチ2、湿疹皮膚炎症候群・虫刺症6、化膿性皮膚疾患7、高血圧症5、不安神経症9、過換気症候群1、ひきつけ1、むし菌1、妊娠の疑い3。

呼吸器感染症と消化器疾患が多いが、処置後の外傷のガーゼ交換も少なくない。不安神経症などの精神疾患も増加の兆しがある。PTSD(心的外傷後ストレス障害)と呼べるような重症の患者も1人診察した。

159時間ぶり救出の5歳被災者の「希望の星」に

【イスタンブール25日石川貴章】トルコ大地震で、がれきの中から159時間ぶりに救出されたイスマエル・チメンちゃん(5)が入院先で元気を取り戻しつつある様子。テレビやラジオを通して連日シボル、被災民らの希望のシンボルとなっている。救出されたのが、イスラムの国・トルコと宗教を異にするイスラエルの救援隊だったこともあり、

【イスタンブール25日石川貴章】トルコ大地震で、がれきの中から159時間ぶりに救出されたイスマエル・チメンちゃん(5)が入院先で元気を取り戻しつつある様子。テレビやラジオを通して連日シボル、被災民らの希望のシンボルとなっている。救出されたのが、イスラムの国・トルコと宗教を異にするイスラエルの救援隊だったこともあり、



雨の中、避難所のテント村で食料配給にならばトルコ大地震の被災者＝トルコ北西部のイズミトで25日午前11時40分、香取泰行写真

募金受け付け
毎日新聞社会事業団の救援募金は「トルコ地震救援金」と明記して左記へ郵便振替現金書留で送金してください。直接ご持参下さい。なお、物資の受け付けはいたしません。

〒530-0825
大阪府北区梅田3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団「トルコ地震救援金」振替0097009-12891

死者数を1万2514人に下方修正
【イスタンブール25日石川貴章】トルコ北西部の大地震で、同政府危機管理センターは25日、前日発表した死者数を5000人以上を下方修正し、1万2514人に訂正した。依然3万人以上が行方不明のまま、最終的な死者数が4万人を超えるとの見方は変わっていない。

された。誰もが生存を絶望視していた。イスマエルちゃん(5)は2日前から流動食を口にするまでに回復。2、3日後には退院し、母シェリフエさん(35)が入院する地に近い別の病院に行き、病院で付き添っている姉のアイシエさんは「あの大地震で、かすり傷を負っただけ。本当に幸運の子。無邪気な笑顔を見ることが救われます。この子は、私たちの希望です」と話し、イスマエルちゃんの顔を、繰り返し見ました。